

みんなの町議会



目次

- 9月定例会の経過…………… 2
- 陳情・全員協議会・議員研修報告…………… 3
- 決算特別委員会…………… 4～5
- 常任委員会の焦点…………… 6～7
- 一般質問に6人登壇…………… 8～14
- あれ なんととなったべが!…………… 15
- 楽しんでます・がんばってます…………… 16

No.136

2018年10月1日

多くの来場者で賑わった消防フェア

広ヶ野橋補修工事契約など

全議案を**可決**

9月 定例会

議会の経過

9月定例会は9月4日から14日までの11日間の日程で開かれた。

初日渡邊町長は行政報告で「5月の豪雨災害に対して千代田区より100万円の見舞金をいただいた。五城目町地域活性化支援センター指定管理者の公募を9月3日より開始している。ふるさと納税は7月までの寄付金額215万円で、前年同時期の3割となっている」と述べた。

行政報告の後、決算特別委員6名を選出し、決算特別委員会を設置した。

2日目の一般質問には6名が登壇。介護保険事業、コミュニティバス、認知症予防、県道秋田八郎潟線の不通解消、観光と産業活性化推進、町長への手紙などの質問をした。

3日目は30年度一般会計補正予算案、29年度一般会計歳入歳出決算認定案など議案17件、報告4件が上程され、各委員会で審査した。



また29年度一般・特別会計歳入歳出認定案は決算特別委員会を4日間開催し審査した。

最終日は決算特別委員長・各常任委員長報告の後、人事案件を含む全議案を全会一致可決、認定、同意、報告済とした。陳情1件は賛成多数で採択。1件を継続審査とし、議員提出議案1件を賛成多数で可決し閉会した。

補正予算の主なもの

- 町有3施設ソーラー発電設備改修工事費 528万円
- 小学校改築事業外構工事調査設計委託料 200万円
- 土木施設災害復旧事業費 1,248万円
- 赤倉山荘厨房給水配管工事費 130万円
- 浅見内地区防火水槽設置工事費 886万円



新任

猿田 秀樹氏 (61歳)

上樋口

人権擁護委員の
推薦に同意

(石井 光雅)

陳情・意見書送付

五城目町議会が議決した意見書を各関係機関に提出しました。

陳情

採択

◆消費税10%引き上げ中止を求める意見書提出の陳情書

秋田県商工団体連合会

会長 小玉 正憲

総務産業常任委員会では採決の結果可否同数となり、委員長判断で不採択。本会議で起立採決の結果採択となり、議員提出議案で意見書を提出した。

採択に賛成の議員

荒川 滋 椎名 志保
佐藤 慶彦 斎藤 晋
伊藤 正春 佐藤 重信
千田 峯夫 荒川 正己
石川 交三

採択に反対の議員

佐々木仁茂 畑澤 洋子
石井 光雅 館岡 隆

継続

◆臓器移植の環境整備を求める意見書の採択を求める陳情書

継続理由

意見書案の文面に過激な表現があり調査研究が必要である。

議会議員全員協議会

平成30年8月22日

協議案件

(1) 公共施設再生可能エネルギー等導入事業に係る会計検査に伴う改修工事について

報告案件

- (1) 社会資本整備総合交付金事業 広ヶ野橋橋梁補修工事について
- (2) 地域公共交通について
- (3) 五城目町地域活性化支援センター指定管理者の公募について

議員研修報告

南秋田郡の全議員が対象

研修名

南秋田郡町村議会議員大会

研修日 7月20日

研修先

ホテルサンルーラル大潟

講師

大潟村産業建設課

農業アドバイザー

松橋 秀男氏

講演

輸出促進活動から見えた

これからの農業

参加議員

全議員

より良い議会広報をめざして

研修名

秋田県町村議会広報研修会

研修日 8月1日

研修先

秋田市ルポールみずほ

講演

住民に読まれ伝わる

議会広報の基本と編集

講師

議会広報コンサルタント

芳野 政明氏

講演

「真の地方創生実現に向けた地方議会の役割」

東京大学法学部教授 金井利之氏



経済ジャーナリスト 須田慎一郎氏

参加議員

荒川 滋 椎名 志保
佐藤 慶彦 小林 正志
斎藤 晋 佐々木仁茂
畑澤 洋子 石井 光雅
佐藤 重信

議会の役割を学ぶ

研修名

秋田県町村議会議員研修会

研修日 8月1日

研修先

秋田県市町村会館

講演(1)

真の地方創生実現に向けた

地方議会の役割

講師

東京大学法学部教授

金井 利之氏

講演(2)

どうなる!?これからの

政治・経済の展望

講師

経済ジャーナリスト

須田慎一郎氏

参加議員

全議員

決算の審査の意義や重要性を学ぶ

研修名

自治体決算の基本と実践

研修期間

平成30年7月25日～26日

研修先

滋賀県大津市・

全国市町村国際文化研修所

参加議員

椎名 志保 (畑澤 洋子)

決算特別委員会

平成29年度一般・特別会計 全会一致で「認定」



委員 長 石井 光 雅

4日間にわたり行われた決算特別委員会

決算特別委員会は9月7日から12日までの4日間の日程で行われた。付託になった議案は、平成29年度一般・特別会計歳入歳出決算など7議案であり審査の結果、全議案を全会一致で認定すべきものとした。

審査の方針としては、議会が決定した予算が適正に執行されたか、行政効果や、経済効果はどうであったのか、町民の福祉向上につながったのかなど町民目線に立って審査した。

決算特別委員会

委員長 石井 光雅
副委員長 荒川 滋
委員 椎名 志保
委員 齋藤 晋
委員 佐々木仁茂
委員 荒川 正己
参与 小林 正志
(議会議長)

現地視察



北ノ又地区災害復旧護岸工事

審査日程

9月7日
委員長挨拶
審査方針説明
午前 消防本部、議会事務局、出納室
午後 税務課、まちづくり課、総務課

9月10日
午前 農業委員会、農林振興課
午後 商工振興課、建設課

9月11日
午前 生涯学習課、学校教育課
午後 住民生活課、健康福祉課

9月12日
午前 現地視察(浄水場・蓬内台防火水槽・北ノ又災害復旧現場)
午後 健康福祉課
委員会決算認定について採決
委員長総括

各課の主な審査内容

●消防本部

女性消防団員は現在7名おり、本部出向の形となっている。火事には招集しない。災害などがあつたとき、後方支援として活動してもらう。

●議会事務局

28年度から導入したタブレットの更なる活用と習熟に努める。

●出納室

工事検査員13名で58件の検査を実施した。工事代金の支払は検査後2週間以内である。

●税務課

徴収率の増加は税務課職員員の努力であり評価する。町外滞納者には書面による通知だけでなく、足をはこんで収納に努めてほしい。

●まちづくり課

地域活性化支援センターは年間600万円の赤字経営であり、雇用創出にもつながっていない。今後、指

定管理者制度の活用などにより、費用対効果、地域経済の活性化に資するよう対策を講じる。

●総務課

湖東厚生病院は、他県からの常勤医雇用、夕暮れ診療の実施、人工透析受け皿の拡大など色々な改善を行っている。特に入院稼働率が7割を超えて、計画より赤字額が減少し、経営的には安定していく方向にある。

●農林振興課

キイチゴ生産者は現在20軒で、一般町民にも呼びかけているが新規参入はない。面積は60アールから74アールにふえ、収穫量は2トンである。現在作付している生産者に面積の拡大を願っている。

●商工振興課

町の観光は朝市、造り酒屋、三平の家、ネコバリ岩と固定している。町には15の寺がありその歴史、文化財を掘り起こして観光資源にしてはどうか。

●建設課

橋梁点検の結果、主要な橋梁24橋のうち、12〜13橋の修繕が必要であり、今後計画的に進めていく。

●生涯学習課

温水プールで各種水泳大会が現在おこなわれていない。プール改修のさいの大きな課題は、大会開催のためのコースの確保であったはず。水泳大会が開催されないのは残念である。



大会が行われなくなった温水プール

●学校教育課

ピアノの保有台数について、財産調書では9台となっているが、調査をしたところ12台あることが判明した。財産管理の正確を期すよう求める。

●住民生活課

現在空き家は309件、そのうち利活用可能な空き家は60件である。地域おこし協力隊員が、空き家の所有者と移住希望者のマッチ

ングや情報発信をおこなっている。

●健康福祉課

早期健診受診者は、特定健康健診は867人で44.4%、後期高齢者健診は441人で17.7%である。健診の結果新規に10名がガンであることが判明した。受診率の更なる向上に努めてほしい。

●特別会計

国民健康保険の加入は1,377世帯で全町の34%である。後期高齢者保険加入者は2,383人で保険料の口座振替を進めている。介護保険加入者は4,161人で、掛金の滞納者が60人いることから徴収に努める。

下水道事業は29年度で工事が完了した。水洗化率は78.6%である。今後水洗化率の向上に努める。

●水道事業会計

給水人口は簡易水道との統合により前年より459人増の9,103人である。水道料金の統一はいろいろなパターンが考えられ検討中である。



安定経営を求められる湖東厚生病院



修繕工事が待たれる五城目橋

総務産業 常任委員会

雀館幹線浸水対策 徹底的に調査へ



浸水解消が期待される雀館幹線

また同路線の井川町新聞手前は、大雨のたびに道路冠水し通行不能となってきたが、11月20日までの工期で改良工事を行う。これにより通行不能は解消できることになる。

大雨のたびに浸水する町道雀館幹線通りは今後、小学校が建設されると通学路として活用されることから多くの意見が出た。
町道岩野高崎線と県道との間の農地からの水を分水させるべく、当初計画になかった地域の測量も行うために調査設計委託料75万円を補正し、完璧に大丈夫と言えるまで進めることとした。

稲・枝豆種子購入助成



5月の豪雨災害の農地

今年5月の豪雨災害により被害に遭った農家に対し、農業経営等再開支援対策事業により種子購入助成される。対象は、

- ・ 水稲13(個人11、法人2) 232,000円
 - ・ 枝豆2(法人2) 781,000円
- 大豆は今年度申請なし。

(荒川 滋)

自主財源投入「やむなし」で可決

環境省所管の公共施設再生可能エネルギー等導入事業において、太陽光発電設備の整備を役場庁舎(平成24年度)、中央公民館(平成25年度)、消防庁舎(平成27年度)の各施設で実施した。しかし、災害時の停電の際に、発電した電力が一部しか供給できない状態であると、昨年4月に会計検査院の調査で指摘され、その是正工事に係る工事費が本定例会に補正計上された。

この件に関し、総額で528万円と高額なことから、施設の所管が総務産業、教育民生両常任委員会にわたることから、本会議の議案上程の際に一時中断し、会議を議会全員協議会に切り替え、担当課へ議員全体に対する説明を求めた。担当課からは、節電に主眼を置き



中央公民館 太陽光パネル

て事業に取り組んだことから、災害時の停電の際の電力供給は最小限とする省エネ主体の設計とし、災害時には役場庁舎と消防庁舎と設置済の自家発電装置で対応する内容で事業申請を行った。県・国からは、設計審査において指摘されることもなく交付決定を受けており、町の設計が認められたものと考えていたとのことであった。

教育民生 常任委員会

消防団の再編 活動の体制づくりが急務

団員の不足などで消防活動が成り立たない分団が出ていることから、町消防団の再編について検討を進めている。

今回は第一段階として、適正な消防団の活動が行える体制作りを急務とし、再編可能な分団から始め、今後の状況を見極めながら第二段階の再編へと繋がるよう協議検討を行っていく。



女性消防団員も募集しています

9月16日、町消防本部を会場に「五城目消防フェア2018」が好天の下、開かれた。

消防隊員の活動や、人材確保が課題となっている消防団員の役割を紹介するとともに、住民の防災意識の向上を図るため、今年初めて行われた。

消防車・救急車の展示、記念撮影、放水体験、消防〇×クイズ、署員による救助訓練の実演、非常用アルファ米のカレーライスを実食するなど、たくさんの親子連れで賑わった。

乳児のショートステイが 利用可能に

しかし、会計検査院より環境省に対し、是正措置を講じるよう指導があり、その旨の通達が入ったことから町として



役場庁舎 太陽光パネル

止めることにも、近年、大地震や豪雨、土砂災害、竜巻など深刻な災害が全国で頻発する中、災害時の電力供給

がすべて可能となることは、防災拠点や避難所としての機能強化につながり、町民の安心・安全を確保する上でメリットがあるとの説明があった。このことを踏まえ、各常任委員会において審議が行われた。

「事業申請の際に県・国の指導があれば実施できた工事であり、是正工事費用の負担を県・国に求めるべきでないか」などの意見も出されたが、県内において指摘を受けた本町を除く16事業がすべて発注済であることや、防災拠点や避難所としての機能強化につながることを考慮し、不本意ながら可決せざるを得ないとして、本予算を全会一致で可決し、早期の工事完成を求めるとした。

核家族化が進み、子どもを取り巻く環境が変化して来ている。

保護者の疾病、出産、看護、冠婚葬祭、育児疲れ、出張などの理由により、一時的に子どもの養育が出来なくなるといった事例も見られるようになって来た。

このような事態に対応するため、町は、秋田市にある「秋田赤十字乳児院」と契約を交わし、保護者の不測の事態には、子どもを安全に安心して24時間預けることが出来るようになった。



秋田市広面にある「秋田赤十字乳児院」

(椎名 志保)

一般質問

6議員が登壇 ただ 25項目を質す

一般質問とは？

一般質問は、年4回（3、6、9、12月）の町議会定例会において行われます。

議案とは関係なく、町政全般にわたって議員主導による政策論議であり、通告性が採用されています。

一般質問をするかしないかは、議員個人の判断によります。

*五城目町議会では、質問者1人につき持ち時間は60分（質問・答弁含む）となっています。

質問者

佐藤 慶彦 議員

- まちづくりについて
- 地域活性化支援センターについて
- 消防団の再編時期について
- 介護保険事業について

斎藤 晋 議員

- 洪水対策について
- コミュニティバスについて
- 害獣対策について
- 除雪について

畑澤 洋子 議員

- 介護保険制度を持続可能な制度にするために
- 認知症予防は40代から
- 母子手帳アプリ活用でやさしい子育て支援を
- 受動喫煙対策法の成立で当町の対応は
- 児童生徒の安全安心対策の確認

石川 交三 議員

- 合葬墓の建設について
- 子育て支援策について
- 町長の政治姿勢を問う
- 県道秋田八郎潟線の不通解消とナビシステムについて

荒川 滋 議員

- 五城目小学校改築事業と雀館公園再整備
- 観光と産業活性化推進
- ふるさと五城目会の活動活性化に向けて
- クマ出没、捕獲情報の伝達
- 体育祭、盆踊り等、事業への若者世代参加増に向けて

椎名 志保 議員

- 子育て支援について
- 介護給付費の抑制対策について
- 「町長への手紙」について

*誌面の関係上掲載できなかった●印の質問については、町ホームページにて議会映像を配信しておりますのでそちらをご覧ください。

一般質問

介護保険会計は大丈夫か

町長

2025年度の保険料試算は 11,497円（現在8,400円）



佐藤 慶彦

佐藤 団塊の世代が後期高齢者となり、介護給付費の増加が危惧される2025年問題を町としてどう凌いでいくか。

町長 2025年度の第一号被保険者の保険料試算は11,497円であり、この試算額とならないよう効果的な介護予防事業の実施を図っていく。

更に保険料の高騰は、保険料の未納、収納額の低下につながり、また所得の少ない人はサービス利用の自重の危険が高くなる。結果、重度化になり、制度運営が立ち行かなくなってしまう可能性が多分にあることから、国に財政負担割合の増額交付の要望をしていく必要があると考えている。

佐藤 介護が必要になった主な要因のトップは18%で認知

症、続いて脳血管疾患が16%、高齢による衰弱が13%、骨折・転倒が12%である。

認知症予防と骨折・転倒によるサービス利用者へのリハビリの2つに重点置いて施策を展開していく必要がある。



バンザイをする元気な高齢者

佐藤 財政的インセンティブ交付金の対応は、高齢者の自立支援や重度化防止など頑張った自治体には交付金が来るわけだが、町でも取りにくいべきだ。

町長 交付金の申請に係る評価指標の調査が県からきており、調査表の提出は勿論、交付金の申請を行い介護予防な

どに必要な取り組みを進めていく。

佐藤 介護職の人材難に対する対策は。

町長 新卒者を対象とする介護の仕事の魅力を伝えるための介護体験など場を設けて、介護職に対するイメージアップを事業者と協議し人材確保に努めていきたい。

佐藤 先々を考えると中学校の職場体験などで介護体験は必修としたほうがいい。また介護福祉士の修学助成をして自治体もあり見習うべきだ。

大胆な投資を

佐藤 地域活性化支援センターの指定管理料の考え方は、純粋な交流人口は減ってきているように感じており、改善するには大胆な投資が必要だ。

町長 民間事業者がノウハウを有効に発揮できるように、まずは事業者側で現在の支援センターの収支状況と移住・起業関係の事業などを参考として積算してもらい、提案された指定管理料を財政負担も考慮し検討していく。

集落支援員制度の活用を

佐藤 総務省の集落支援員制度は隊員一人に対し自治体に最大350万円の財政措置があり、地域おこし協力隊のような地域要件や最長3年の財政措置という縛りもない、この制度をもっと有効活用すべきだ。

また集落支援員を公民館長として、新しい発想で空き家対策にとどまらない集落支援のモデル地区の設置を考えては。

町長 公民館職員の兼務の形をとる場合、公民館事業とは一線を引いて集落支援のみの活動を独自に行う場合など様々な形態が考えられる。

モデル地区を設置して集落支援員を配置することは可能である。

佐藤 公民館事業として耕作放棄地を活用して自主財源を作るなど経営能力のある公民館長が求められている。

一般質問

洪水でこまっているのは 町民である



齋藤 晋

洪水は、同じ場所で発生する。対処法は。

齋藤 川底や岸に堆積した砂利や泥は、川の水位を上げ洪水の原因になっている。町は管理者である県に対し、どのように働きかけているか。

町長の 町民の財産・人命を守るため 県に対し要望する

町長 県では、緊急性と優先度を考慮し、予算配分をしている。町として、洪水被害の状況を県当局へ綿密に伝達、各期成同盟の場において被害の実情を訴えている。今後も町民の財産、人命を守るため優先度が高まるよう要望する。

齋藤 町民の安全安心を守るために、課だけでなくオール五城目で臨むべきであり、旗振り役は町長である。

病人・高齢者に優しい町

齋藤 交通の便が悪い厚生医療センター（旧組合病院）や秋田市の病院に通院する町民の為に、町独自又は近隣町村と共同で病院へのアクセスを検討すべき。

町長 利用者の現状を分析するとともに、乗り継ぎによる効率化など、既存の公共交通の再編などについて、独自の調査研究が必要である。



町民にやさしいコミュニティバスになってほしい

（旧）組合病院に通院している町民

・27年度 10, 346人
・28年度 11, 093人
・29年度 11, 429人
* 毎年増加傾向にある
（厚生病院調べ）

（旧）湖東病院に通院している町民

・27年度 36, 872人
・28年度 36, 456人
・29年度 35, 817人
* 毎年減少傾向にある
（厚生病院調べ）



なぜ利用者が減少しているのか、湖東厚生病院

除雪の不具合に対する罰則は

齋藤 除雪車が出動するのは積雪何センチ以上か。

町長 積雪積が10cm以上になった場合、あるいは降雪状況により10cm以上になると予想される場合としている。罰則規定は設けてないが、同じ地域において出動状況に違いがあった場合は厳重に注意している。

その他に

- 8月の大雨被害状況は
 - 8月の大雨時、八郎潟防潮水門の水位調整は
 - コミュニティバス体験会の反響は
 - コミュニティバスの本格運用に向け、要望に対する見直しはあるか
 - 熊の捕獲数は
 - 熊の捕獲檻の設置場所は
 - アナグマ・ハクビシンの捕獲は検討しているか
 - 除雪業者への説明会は
 - 除雪作業の不具合やり直し命令を出した事があるか
- について質問しました。

一般質問

やさしい子育て支援に 母子手帳アプリを

町長 導入事例を参考に検討する



畑澤 洋子
(公明党)



スマートフォンで母子手帳アプリを活用

畑澤 平成27年度から「子ども子育て支援新事業」がスタートし、子育て支援に関する情報提供や相談、助言等を行う「利用者支援事業」の実施を求められ各自自治体が独自の支援事業を検討・展開するようになった。八郎潟町では、4月より県内初の子育て支援サービス母子手帳アプリ「はっちい」を始めた。

畑澤 公明党全国百万人訪問調査で当町から一番、苦情が多かった「秋田県一高い介護保険料が年金を目盛りさせている」問題。保険を利用し始めれば、これほどありがたい制度はないと思えるのに、健康な時は生活を圧迫する。保険料をおさえ持続可能な制度にするため町の考えは。

介護保険を持続可能な制度に

町長 保険料基準額の高騰に繋がる給付費の支出を抑えるための総合事業をタイミンングよく利用できる体制を整える。全国的な基準額の格差が大きくなってきている現状から、是正措置の必要性と安定的な制度設計を望むと共に、国費・県費の財政負担割合の増加を切に希望する。

児童生徒の安全 安心対策の確認

畑澤
○ブロッコ塀の安全確認。
○授業・部活の熱中症対策。
○登下校時の荷物の重さ対策。

町長 ●学校敷地にブロッコ塀はない。通学路に民家のブロッコ塀はあるが、危険なブロッコ塀は確認されていない。●熱中症対策は、室温測定・水分補給・ミストシャワー等。部活動・体育の後など6名に熱中症の症状が出てすぐ対応した。●小中学校で荷物を軽くする対応をし以前より軽くなっている。

40代から始める 認知症対策を

畑澤 軽度認知障害以前の40代で、はっきりと症状の表れない時期「プレクリニカル認知症」のうちに生活を改める支援が必要だ。啓発活動が大事になってくる。周りの人に気配りや支援ができるように学んだ認知症サポーター・キャラバンメイトの人数は。

町長 啓発活動の一環で「認知症サポーター養成講座」を商工会青年部で午後6時30分から実施した。今後もし若い人が参加できる夜や土日でも柔軟に対応していく。「認知症ケアパス」を作成・配布し周知を図りたい。現在、認知症サポーターは1222名。キャラバンメイトは16名となった。

「改正健康増進法」 町の対応は

町長 「県と市町村が足並みを揃えて行政機関での敷地内禁煙を実施したい」との協力要請があり、町としても改正法の施行期日向け準備を進めていく。

一般質問

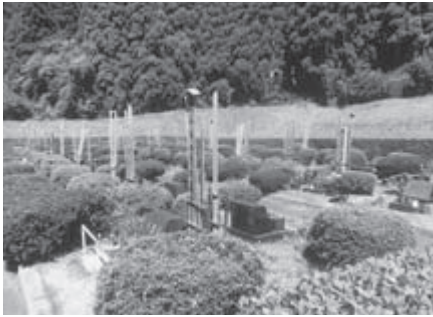
「合葬墓」の建設を進めよう



石川 交三
(日本共産党)

町長

検討を進めて、心安らかに使用できる形を見いだしたい



合葬墓は求められている (杉ヶ崎墓苑墓地)

石川 秋田市が合葬墓を整備したところ希望者が殺到した。家を継ぐ者がいない、墓がない、墓があっても将来にわたって維持管理していく人がいないなど、理由は様々だが合葬墓の整備は求められているし、時代の要請ではないか。

町長 町の墓苑は昭和五十五年より管理運営され、四十年近く経過し、核家族化や町外・県外転出など、墓地利用者を取りまく環境は大きく変

町長 町の墓苑は昭和五十五年より管理運営され、四十年近く経過し、核家族化や町外・県外転出など、墓地利用者を取りまく環境は大きく変

町長 人員不足解消は国策としても処遇改善に取り組んでおり、もりやまこども園でも処遇改善に特に力を入れて、保育士確保に努めている。保育士経験者への依頼など可能な限り努力する。

町長 恒常的な保育士不足による。園児三人に保育士の数

町長 機会をとらえて一部区間の整備や供用開始となるよう強く働きかけていく。

町長 以前は仁別までマイク

石川 保育園入所ができず、待機を余儀なくされている町民がいる。理由は何か。

町長 恒常的な保育士不足による。園児三人に保育士の数

町長 機会をとらえて一部区間の整備や供用開始となるよう強く働きかけていく。

町長 恒常的な保育士不足による。園児三人に保育士の数

町長 以前は仁別までマイク

一般質問

小学校建設はオール五城目で

教育長

地元産木材活用のため 協議の場を設ける



新たな学び舎は五城目の力の活用を

荒川 昨年、五城目森林組合から、地元産木材の活用と地元業者への発注を求める陳情が出され採択となった。どのように検討しているか。

教育長 新校舎の構造は基本的には鉄筋コンクリートとなるが、地場産木材を内装に使用する。多目的棟は、木造の計画で木材を多用することになる。実施設計において、樹種や使用量が決まったら地元業者と協議の場を設ける。工事の発注については今後検討していく。



荒川 滋



学校建設に合わせて雀館公園の復活を

荒川 雀館多目的広場（グラウンド）の土の入れ替えが必要と考えるが。

教育長 これまで補充的な土入れや草刈りなどを実施している。土の入れ替えに関しては、業者委託にかかる経費などを調査検討する。

荒川 学校建設に合わせ、桜管理樹木医、庭園の手入れなど雀館公園の再整備を。

教育長 樹木医による管理は、経費などを調査検討する。本定例会でテングス病桜枝の伐採除去、桜苗植樹にかかる土壤改良経費を計上している。憩いの場である公園であることから優先順位をつけ順次整備を進める。

◆◆◆ キイチゴPRイベント・だまこまつり開催を ◆◆◆



大いに賑わうG級グルメまつり

荒川 道の駅で開催し好評だったキイチゴフェアを拡大し町を挙げてのイベント開催を。

町長 果実も加工品も広く注文を受けているが、供給と需要のバランスが取れておらず注文を断らざるを得ない状態である。今後少しでも生産量を増やし、イベントを開催し更なるPRにつなげていきたい。

荒川 昨年の町功労者表彰式典で五中生が英語で述べた『だまこまつり』を実現させるべき。

町長 町米消費拡大活動推進委員会の皆様の尽力、G級グルメの開催でPRの推進にあたってかれている。『だまこまつり』は素晴らしい提言であると受け止め今後検討する。

◆◆◆ ふるさと五城目活性化にむけて ◆◆◆



『ふるさと五城目会』総会の様子

荒川 今年30周年を迎え、町と首都圏を結ぶ大切な役目を担っているふるさと五城目会。新規会員獲得のため町としての対応策は。

町長 昨年11月頃から若い世代の本格的な勧誘など組織力の強化を図るための協議を進めている。会が主体的に行う組織強化対策事業に対する支援を行っている。

一般質問

相談者に寄り添った 窓口対応を



椎名 志保

町長 今後適切に行っていく

椎名 去る6月下旬、健康福祉課窓口において、乳児を抱いた母親とのやりとりに混乱があったと聞いた。悩みを抱えた母親に寄り添い、適切な対応が出来なかったものか。

町長 事情があり、緊急時に夜間を含め一時的に乳児を預けられる施設についての相談であったが、的確な解決策を示すことが出来なかった。

このことを踏まえ、保護者の不測の事態に対応可能なショートステイ事業を活用することにし、秋田赤十



「ARUCO」の活用を

字乳児院と契約を交わし、町民が利用出来る体制を整えた。今後、子育て支援の需要の動向、要望などを検討し、支援策に活かしていきたい。

椎名 妊婦や乳児の健診などでタクシー利用が出来る「エンゼルタクシー利用券給付事業」であるが、使い切れず返納している例が多く聞かれる。子育て世代を対象としたワークシヨップでも、「使い切れない買った分で、ミルクやオムツを購入出来るようにして欲しい」など、改善を求める声も聞かれていたが、どうか。

町長 転入された妊婦へも給付したり、有効期間を延長するなど、見直しを行っているが、依然半数近くが利用されていない現状である。

今後は、より多く利用されるようタクシー券だけではなく、出産後の子育てにも活用出来るよう検討している。

介護予防の意識を より浸透させるべき

椎名 介護給付費の抑制対策として、各地区で介護予防事業が展開されているが、男性の参加が少ないなどの問題点も見受けられる。今後どのように進めていくか。

町長 各種介護予防事業の効果としては、「腰痛や膝痛が和らいだ」「血圧が安定した」「自動車免許の更新が不安なく出来た」など、状態が改善された様子が聞かれている。「いきいき男塾」を各地区で行うなど、男性の参加も促していきたい。

椎名 要介護認定の更新時の判断は適正に行われているか。ケアマネージャーに町の方針を示し、それが反映されたケアプランであるかの確認も必要ではないか。

町長 認定期間中のサービス利用状況を個々に確認し、その後のサービスの必要度合いを適正に判断することで、約100名の認定者減少となった。

今後、ケアマネージャーとの連携も図っていく。

「町長への手紙」 町政に反映を

椎名 町民の声を聞く施策である「町長への手紙」であるが、町政に反映された例はあるか。建設的な提言などは積極的に取り入れるべきではないか。

また町広報に掲載し、町民に紹介する機会を設けてはどうか。町政が、より身近になると考えられる。

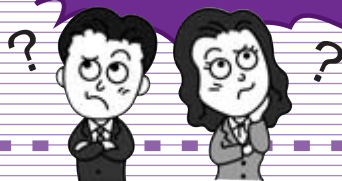
町長 災害の防止策の提案などもあり、参考にしている。今後も、町民の皆様を活用していただきたい。



設置場所の配慮も必要

あれ

なんとになったべが!



平成29年9月定例会一般質問より

問

消防団再編の統合は必要最小限とし、団員確保に重点を置くべき。

答

様々な取り組みをしているが、団員確保には結びついていない。再編に当り、機別消防団員や女性消防団員の確保に全力を挙げて取り組む。

現在

再編については、第一段階として、適正な消防団活動が行える体制作りが急務となっている。再編可能な分団から進め、機別消防団員や女性消防団員の確保に努めるとともに、次のステップへ繋がるような再編となるよう協議検討している。



士気高揚につながる消防訓練大会

る。

なお、昨年10月に初の女性消防団員が加入し、現在7名の女性消防団員が活躍している。

問

企業立地推進基金を活用し、中小企業の支援を。

答

必要な時に必要な支援ができるように、条例改正などの準備はしておきたい。

現在

起業家の誘致や育成、地元企業の育成支援などのソ

フト事業について、国・県の支援制度の活用とあわせ、企業立地推進基金条例や同施行規則の一部改正を行い、基金の活用ができるよう調査検討を行っている。

問

災害時の避難所運営の在り方と障害のある人が避難所での支援を受けやすくなる災害用バンダナの作成を。

答

避難所運営マニュアルの作成を進めている。各個人が状況に応じた支援を受けられるよう個別計画を作成し災害用バンダナも検討する。

現在

避難所運営マニュアルの作成を鋭意推進する中で、災害用バンダナも含め、避難者の総合的な支援について検討している。

問

町民の安全で安心な生活が脅かされる家屋への被害防止対策を。

答

現地確認を行い、危険な原因が町に起因したものや公共性のあるものであれば、危険を回避する工事などを公共事業として実施できるよう努める。

現在

豪雨被害が連続する地域・家屋について、原因調査を実施し、町に起因したもののや公共性の高いものは、順次改善を図っていく。

(佐々木仁茂)



落合鶴亀漫芸一座

『地域の宝は住民そのもの』



座長 伊藤 一男さん (落合)
(右から2人目)

◆一座の紹介をお願いします。

伊藤 ここ落合は平成21年度に限界集落となりました。

当時多くの関係者のご協力を得てワークショップを重ね、地域の宝は『住民そのもの』と気づき、住民の趣味や特技を生かした中から誕生したのがこの一座です。平成22年12月に中津又地区コミュニティセンター竣工式で初舞台を迎え、その後、町内外で50回の公演を数えるほどになりました。小さな芸能集団ですが、モットーは『笑いと健康』で私たちの芸で笑いを発信している人、一人ひとり

が健康であってほしいと願いつつ活動しています。

◆県特別賞を受賞して。

伊藤 今回、県の記念日に特別賞をいただき、これを励みとして、大げさな目標ではございますが、体力の続く限り県民の健康寿命を長くするための一助となればと思っています。

◆議会への要望はありますか。

伊藤 高齢化率が年々上昇する現状で限界集落に活力の持てる起爆剤なるものがないだろうか。各地区の良い例を参考にしながら推進してほしいと思います。

(荒川 滋)

がんばってます

『楽しくおどっています』



五城目小学校4年
柴田 ^{かえで}楓さん
(曙 町)

ダンスを始めたきっかけは、姉が習っていたからです。最初はあまりきょうみをもっていませんでした。が、姉がいしよを着て楽しそうにおどるすがたを見て、私もおどってみたいなと思いました。私は3才のころから始め、最初はチャチャチャしかおどっていま

せんでしたが、今では9種目おどることができました。種目によって表現の仕方やステップがちがうので、むずかしかったですが、うまくできたときはとても楽しいです。

今年にはスポーツダンスフェスティバルで3つ1位をとることができました。今は秋田ダンス選手権大会やメダルテストにむけて練習をがんばっています。今回のテストであたらしくサ

ンバがふえてむずかしくなったので、とくにがんばりたいです。全てのおどりを楽しくおどって合格したいです。また、姉のようにリーダーもパートナーも両方完ぺきにおどれるようにがんばりたいです。



向かって左が楓さん

(椎名 志保)

編集 後記



暑かった夏が過ぎ実りの秋を迎えた。今年の夏、金農野球部のあの活躍に我々は胸躍らせ感動の涙を流し、秋田県民であることを誇りにも思った。スポーツの素晴らしさをあらためて思い知らされた格別に暑い夏となった。感動に心から感謝である。

昨年に続き、今年5月に町を襲った豪雨災害で広範囲の農地が被災し、作付けが出来なかつた箇所も多い。災害の恐ろしさや憎さを感じながら、平成最後の秋は特別なものとなっている。豪雨、台風、地震まさに災害列島日本。

町では、防災行政無線の整備が進められているが、本来の役目である災害の連絡ではなく、町の宝である子供たちの活躍で、町民の胸躍るような知らせがスピーカーから聞こえてくることを願わずにはられない。

やってくる新たな時代が前途洋々なものになるよう、議会は行政と共に歩んでいかなければならない。

荒川 滋